

2022年3月期第1四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2021年8月5日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

全体

Q：第1四半期では、連結ベースで計画に対してどれくらい上振れたのか。

A：5月公表時の計画に対して実質70億円程度の上振れとなりました。

Q：各事業セグメントの営業利益について、5月公表時から、上期は5つのセグメント合計で90億円上方修正する一方で、下期は据え置きと営業利益の偏りが大きくなったのはなぜか。

A：元々5月公表予想時点から、第1四半期での遊休不動産の売却益約23億円と精機事業でFPD露光装置の据付が上期に集中することを想定していたため、営業利益は上期に大きく偏る想定でした。第1四半期では、映像事業で部品調達遅延等によるミラーレスレンズ新製品の発売時期変更で予定していた経費計上が下期にずれたこと、精機事業で装置復旧のためのサービス対応による一時的収益があったこと、さらに全社に影響する要素として、米国子会社における年金制度変更に伴う20億円弱の利益が第1四半期に発生し、下期にほぼ同額の経費が発生することなど、新たに上期・下期の偏りを増幅する事象が生じたためです。

映像事業

Q：第1四半期の実績に対し、第2四半期の業績見通しは低くないか。

A：第1四半期では、円安の効果に加え、コロナからの回復によりプロ趣味層向け中高級機の需要が強く、商品の品薄感から予定していた販促費を支出せずに販売できたことなどから売上・利益は計画を上回りました。一方、例年、第2四半期の売上は第1四半期の売上より弱めになる季節要因があるのに加えて、今期は、部品調達リスクによる商品供給上の制約や、タイのコロナ感染拡大を受け、タイの工場では従業員の健康と安全に配慮し操業していることも影響しております。

Q：下期の売上収益見通しはどうか。

A：下期もコロナの影響を見通しづらい状況が継続するため需要の見積もりが難しく、部品の調達を含む商品供給面でのリスクも勘案して、下期の売上収益は5月公表予想を据え置く850億円と想定しています。

精機事業

Q：前回の5月公表時から精機の来期見通しについて変化はあるか。

A：5月説明時の状況からあまり大きく変わっておりません。FPD装置事業に関しては、G10と呼ばれる大型パネル用のFPD露光装置の販売台数が来期は減少し、収益も今期より低下する可能性があります。一方、半導体装置事業については、露光装置の販売は主要顧客より一定数の受注を確保できていることから、来期は今期より上向くとみております。

また、FPD装置事業と半導体装置事業のいずれも、顧客サイトにある当社の装置は高稼働な状況でご利用いただいております。保守などのサービス関連は底堅く推移するものと考えています。

コンポーネント事業

Q：足元の業績は順調で年間計画の営業利益80億円は達成できるということだが、今後のEUV関連コンポーネントの成長性について教えてほしい。

A：強みである光学技術を活かした当社のコンポーネントが顧客から一定の評価を得て採用いただいております。顧客企業のビジネスの伸長とともに、EUV関連コンポーネントの収益が拡大することを期待しています。

Q：EUV関連コンポーネントの出荷の増加にともなって必要となる生産能力拡充に関して、制約や他セグメントとのコンフリクト等はあるか。

A：顧客の要望にお応えできるよう、全社横断的なプロジェクト体制を組んでおり、増産には対応できるものと考えております。

以上